

1.本園の教育方針

- (1) カトリックの愛の精神に基づく道德教育を行う。
- (2) 教育の第一責任者である両親に協力し、助成するための教育に力を注ぐ。
- (3) 集団生活の体験を通して、共同生活と神から賦与された成長の法則に従って自ら感性しようとする幼児の自主自立を助け調和のある精神を養う。

2.本年度の重点敵に取り組む目標・・・表内赤文字

3.評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A：達成している B：一部達成している C：一部改善を要する D：改善を要する

に教 保職 修育 員の 充振 実り を返 図り 上の 園の ため の研	園内研修を継続的に実施し保育の振り返りや改善に生かす	4	改善点を保育に生かし、園内研修を自発的に取り組む	3	4	園内研修・研修以外にも自ら学ぼうとし、教材を提供したり、学んだことを教師間で伝え合おうとするようになった	3.2	3.1	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修で、季節の視覚教材を作ったり子供のおもちゃを作ったり、より実践的な取り組みをおこなったことで、保育に活かすことができた ・日頃から子どもの様子を共有したり、改善点を伝え合ったりできていた ・園内研修の取り組みが、受け身になりがちで自発性に欠けていた ・行事が多い月や学期は園内研修の継続が難しいこともあった。様々な方法を考えていきたい。
		3	園内研修を通して、保育を振り返り、お互いの良いところや、課題を話し合う		3	教師同士が保育を振り返り、お互いに良いところ、改善点を伝え合い、保育に活かすようになった			
		2	園内研修で学んだことを実践する		2	学んで実践したことを、教師間で報告し合い、自分の保育を振り返る			
		1	子どもたちの様子を伝え合い園内研修の内容を話し合う		1	子どもの様子をよく見て、声や様子を記録する			
伸 び伸 びと 育ち	子どもたちが伸び伸びと意欲的に身体を動かして遊ぶ保育の展開	4	子どもたちがどのような遊びに興味関心を持っているか、捉え遊びが深まるよう環境構成を見直す	3	4	自分たちで遊びを創造したり、遊びを深めたりする中で、体を動かす楽しさを味わうようになった。	3.6	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・自由遊びの中で、子どもたち同士自然と学年を超えて遊ぶことができていた。保育の中でも異年齢児が触れ合える時間をもっと取り入れたい ・室内にも家庭ではできないような運動器具（マット、平均台、跳び箱）を環境設定し、体を動かす興味を引き出し、意識を高められた。 ・様々な遊びを提供するものの、持続せず、いつも同じような遊びばかりに偏っていた
		3	異年齢の子どもが一緒に体を動かして遊ぶ機会を積極的につくる		3	異年齢児同士で、一緒に遊ぶ姿や、様々な遊び・運動を教え合う姿がみられるようになった			
		2	体を動かして遊びたいようになるような保育を計画する		2	積極的にからだを動かして遊ぶようになった			
		1	教師が積極的に子どもと遊ぶ		1	友だちと一緒に遊ぶことを楽しんでいる			

合う子ども	生き物や、植物に興味関心を持ち、発見や気づきを通して探求心を育み、いのちの大切さに気付く保育展開	4	生き物の飼育や、植物の栽培を行う中で子どもたちの心の動きを記録する	3.3	4	自然の木々や花、生き物すべてに命があることを知り、大切にしようとするようになった	3.6	3.3	<ul style="list-style-type: none"> ・遠足や園外保育で自然に触れあい、子どもが自ら花や実の名前を、図鑑で調べる姿が見られたり、知っていることを話してくれたりする姿が見られた ・季節の野菜を栽培・収穫し、旬のものを頂くことでも自然のお恵みを感じ、感謝することができていた。 ・クッキング・製作・遊びを通して、自然を感じたようだった。また子どもたちのつぶやきや様子を書き留め、保護者におたよりで、知らせられたのはよかった
		3	園内外の様々な自然を、季節に応じた豊かな体験ができるような保育を計画する		3	自分から、生き物や花を見つけたり、図鑑で調べたり、興味を持つようになった			
		2	季節の自然物を飾り、子どもの目に触れる機会を増やす		2	栽培している植物に進んで水をあげたり、飼育している生き物に関心を持つようになった			
		1	子どもと一緒に外に出て遊ぶ中で、園庭の自然物を子どもと一緒に見つける		1	戸外の自然物を進んで見つけるようになった			
幼児の安全な園生活の保障	安全点検や、教職員・幼児の安全対応力を高める	1	登園前の園庭や室内の安全点検を欠かさないようにする	2.8	1	遊具の約束を守って遊び、ケガをしないように工夫して遊ぶようになった	3.2	3	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の回数が少なかったため、各クラス・学年で、もう少し日常的に取り入れていきたい。 ・遊具一つ一つの遊び方を考え、共通理解した中で、教師の安全に対する意識が高まり、子どもたちとも繰り返し使い方を確認できたことにより、安全に遊具を使うことができていた ・園庭環境を見直し、危険箇所安全コーンを置いたり、クッション材をひたりできた。毎朝遊具の点検も行った
		1	安全計画に基づき定期的に安全教育を行う		1	防災意識を持って避難訓練に参加するようになった			
		1	災害緊急時の対応が職員間で共通理解する		1	園内の危険箇所を知り気を付けて行動するようになった			
		1	園内の危険箇所を子どもと一緒に確認する		1	自分の命を守るために大切なことを知り、安全教育に意欲的に参加するようになった			

総合的な評価と今後の課題 総合評価・・・A

◎教師の質の向上についてはより実践的な得ない研修を行ったことで、作った視覚教材などを使って保育に活かすことができた。振り返りについては、全体で、その月の子どもの様子、クラスの様子を伝え合う機会を設けているため、他のクラスの様子や、子どもたちの様子を共有できた。園内研修でどんなことを行いたいのか、それぞれの教師からの発信ができるようになるとより教師の主体性が発揮されるようになると思うので次年度の目標の1つとする。また、無理のない計画をたてていく。

◎のびのびと育ちあう子どもでは、園外保育で地域にある公園で自然と触れ合う機会をもった。その中で子どもたちが自ら図鑑で植物や虫を調べたり、見つけたものを友達や教師に伝えたりする姿がみられるようになり興味、関心を深めるきっかけとなった。また、遊びの中では、学年を超えて遊ぶ姿がみられ、自然な縦割りでのかわりがみられた。

◎幼児の安全な園生活の保障では、遊具の安全点検を行い、子どもたちには遊具の使い方について、繰り返し伝えたことで、意識が高まった。避難訓練については、回数が予定より少なかったことと、様々な想定を行い、教師だけの訓練も含め、さらに計画的に行いたいと考えている。